

誰もが抱える悩みをパワッと解決!



早稲田アカデミー
教育事業第二本部副部長
福田 貴一

福田貴一先生の 福が来るアドバイス

「中学受験では、大人びた子の方が合格しやすい」といわれることがあります。確かに、複雑な思考が求められる問題や難度の高い文章読解問題などは、精神的成長が早い生徒の方が正解を出しやすい傾向にあります。低・中学年の段階でも、やはり精神的成長が成績を左右する一つの要因になってきます。では子どもの精神的成長を促すために、親はどのような働き掛けをすればよいのでしょうか。

「自覚」「環境」「刺激」が成長を促す

「9歳・10歳の壁」

「9歳・10歳の壁」という表現をご存知でしょうか。9歳・10歳前後に大きな精神的成長のタイミングがやってくる、という話です。文部科学省のWebサイトにも、「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」という項目で、9歳以降の子どもの特徴が次のように記載されています。

物事をある程度対象化して認識することができるようになる。(中略)自分のことも客観的にとらえられるようになるが、一方、発達の個人差も顕著になる(いわゆる「9歳の壁」)。

「壁」という言葉に否定的な印象を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、「行く手も

肯定的な意識を持たず、自尊心の低下などにより劣等感を持ちやすくなる時期でもある。

はばむもの」というよりも、「乗り越えることで大きく成長できるもの」をイメージしていただくとういでしょう。この壁を越える前の段階では、子どもの意識の大半は「大人」に向いているといわれます。親や先生という「大人」にほめられたい、あるいは叱られたくない、という意識が強いのです。しかし、「9歳10歳の壁」を越えると、その意識の対象は「大人」から「同年代の友人」に移っていきます。

友人を意識することで生まれる感情

先ほどご紹介した文部科学省のWebサイトの記載は、以下のように続いています。

身体も大きく成長し、自己肯定感を持ち始める時期であるが、反面、発達の個人差も大きく見られることから、自己に対する

習も大切なのですが、それはもう少し先、5年生以降に取り組んでも十分間に合います。

どんなお子様でも、大きく成長する時期必ずやってくるものです。そのタイミングで成績向上につながる学習にしっかりと取り組めるよう、9歳・10歳の段階では、お子様の自己肯定感を大切に育んでいただきたいと思います。

精神的成長を促すポイント

さて、お子様の精神的成長を促すための親の接し方には、どのようなものがあるのでしょうか。もちろん、「こうすれば必ず成長する」という方法があるわけではありません。ただ、「接し方のポイント」であれば、いくつか挙げられるように思います。大切になってくるのが、「自覚」「環境」「刺激」という3つのキーワードです。「自覚」は、自分の今の位置を意識することから生まれます。「あと数か月で高学年だね」「1年が明けたら5年生、受験生まであと1年だよ」……そんな言葉で、お子様の意識を更新してあげてください。また、お正月や新学期、お誕生日などの「きっかけ」となるタイミングをとらえて「自覚を促す」という話をさせていただくのも効果的です。

「環境」については、保護者の方の役割が大きくなるでしょう。中学受験へ向けた学習を進めるにあたって考えるべき「環境」は、やはり進学塾ということになります。お子様の成長段階や性格などを踏まえて、どのような「環境」な

らば「刺激」を受けることができ、成長につながるかを考え、選んでいただきたいと思います。

「初めて」の「刺激」、「他者」からの「刺激」

「初めて」行った場所、「初めて」見たもの……。お子様にとって一番大きな「刺激」となるのは、経験したことのないものに触れたときでしょう。「初めて」の経験は大きな刺激となって、強く記憶に残るはず。ただし、「初めて」であればどこでどのような体験をしても「刺激」になる、というわけではありません。お子様にとって効果的な経験になるかどうかは、やはりお子様自身の成長段階によって決まるように思います。

例えば、今まで家でアニメしか見ていなかったお子様が、映画館で初めて映画を見ることに

当然のことですが、子どもの成長スピードには個人差があります。子ども自身が友人のことを意識するようになり、さらに自分を客観視できるようになることで、その「差」がより大きくクローズアップされるのだと思います。特に進学塾での学習においては、成績が比較しやすい「数字」で出てくることからその「差」が明確になりやすく、お子様が自信を失ってしまうこともあります。

このタイミングで学習に対する自己肯定感を損なわないようにするためには、「得意なことを徹底的にやらせる」、「好きなことを突き詰めるといった方法が効果的です。もちろん、中学受験に向けては「苦手を克服する」ための学

なれば、それは「刺激」につながるでしょう。映画ではなく演劇やミュージカルの舞台を初めて見れば、もっと大きな刺激となるはず。しかし、その映画や舞台の内容が難しすぎてよくわからなかった場合、期待したような刺激は得られなくなってしまう。お子様にいつ、どのようなかたちで「初めて」を経験させてあげるかを決めるのは、保護者様の大きな役割だと考えています。

もう一つの大きな要素は、「人」からの刺激です。自分とは違う考え方や価値観に触れるという点で、さまざまな「人」と会話することは、お子様の成長を大きく促すはず。そういった点では、保護者様のご実家に帰省されたとき、自分とは住んでいる場所や年代が違う親類の方との会話も、お子様にとっては大切な成長の機会なのです。



福田 貴一 の
四つ葉café 公開中!

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー
教育事業第二本部
副部長
福田 貴一

著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』（新井出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索

左の二次元コードを読み込んでご確認ください
スマートフォンから